


より詳しくは  <http://www.stellaimage.com/>

デジタルカメラの進化で、天体写真がより身近なものになりつつあります。新発売の「ステライメージ7」は、デジタルカメラや冷却CCDカメラで撮像した天体画像をより美しく仕上げられるように、基本性能のブラッシュアップと処理作業の効率化を実現。天体写真を始めたばかりの方からベテランまで、天体画像を処理するすべての方にお勧めのソフトウェアです。



天体画像処理ソフトウェア

StellalImage®7

ステライメージ7

●「ステライメージ7」/29,400円(本体28,000円)

●「ステライメージ」登録ユーザー様のバージョンアップ価格

「ステライメージ Ver.6」⇒「ステライメージ7」
29,400円(税込) ▶ 12,000円(税込)

「ステライメージ Ver.5」⇒「ステライメージ7」
29,400円(税込) ▶ 15,000円(税込)

●「ビデオマニュアル」/3,150円(本体3,000円)

「ステライメージ7」へのバージョンアップとともに
「ビデオマニュアル」を申し込まれた場合の優待価格
3,150円(税込) ▶ 2,000円(税込)



●開発/販売元
株式会社 アstroArts
〒151-0063
東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12
富ヶ谷小川ビル1F
Tel 03-5790-0871
Fax 03-5790-0877

<http://www.astroarts.co.jp/> **AstroArts**

● 濃い天体画像をしっかりと見せる黒ベースのインターフェース

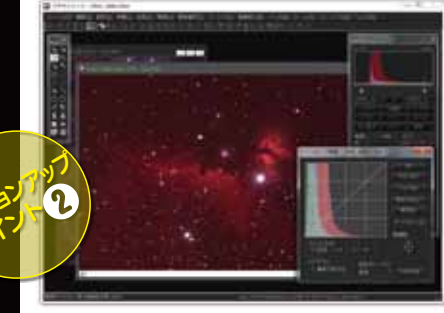
天体画像は、濃い階調がどう見えるかが重要なポイントです。アプリケーションを黒を基調としたデザインにすることで、注目している画像の濃い階調がしっかりと確認できるようになりました。また、新たに実装された「チャンネルパレット」を使えば、処理中の画像をR/G/Bそれぞれのチャンネルで表示してレベル補正を行ったり、マスク画像を操作したりすることができるようになりました。



バージョンアップポイント ①

● ダイアログ操作中に、画像の拡大・縮小やウィンドウ切り替えが可能

画像処理のダイアログを操作している間も、他のウィンドウに表示された画像を見たり、画像の拡大・縮小やスクロールができるようになりました。複数の画像を参照しながら画像を処理するなど、これまで以上に効率良く処理を進めることができます。



バージョンアップポイント ②

● コンポジットの自動化と精度向上で、より高画質な仕上がりに

コンポジットする画像を自動解析して、位置ズレと回転ズレを自動的に検出・調整することができます。解析結果を画像の合成前に確認することができるので、確実なコンポジットが可能です。さらに、コンポジット時のアルゴリズムも、バイリニア、バイキュービックをはじめとする5種類から選択可能で、これまで以上に高画質なコンポジット画像を生成できるようになりました。



バージョンアップポイント ③

● オートストレッチでカラーバランスを自動調整

上坂浩氏が考案した「オートストレッチ機能」を搭載。背景とカラーフィルタの係数を指定することによって、常に安定したカラーバランスを得ることができるようになります。カラーフィルタ係数が不明でも、背景をニュートラルグレーに保ったままの調整が可能になるため、冷却CCDカメラだけでなくデジタルカメラの画像にも有効です。



バージョンアップポイント ④

● H α 太陽像の光球面とプロミネンスの調子が簡単に整えられる

H α で撮影した太陽像で光球面とプロミネンスの両方を見えるようにするには、これまでは極端なトーンカーブ補正処理が必要でした。新機能の「H α 画像補正」を使えば、光球面の縁とプロミネンスの明るさのしきい値を画面を見ながら決めるだけで、簡単に処理できるようになりました。



※画像はすべて開発中のものです。



バージョンアップポイント ⑤

● 天体画像処理の基本を、動画を見ながらステップバイステップで学習

天体画像処理は難しい、そんなイメージを持っている方はまず「ビデオマニュアル」を利用ください。処理の順番さえ覚えてしまえば、自分の好みの調整を加えていくだけで、撮影したデータの可能性を引き出すことができます。すでに天体画像処理を楽しんでいる方でも、基本をおさらいすることで、きっと新しい発見があることでしょう。



ビデオマニュアル (別売)

「ステライメージ7」の主な機能 (▶ マークは新機能)

● 階調・色調補正

- ▶ チャンネルパレットで画像の表示チャンネルの切り替え、ワンタッチでレベルを変えながら処理の具合を確認
- 画像のピクセル値を変更しないレベル調整で、階調を保持
- 「レベル調整」ダイアログで、ヒストグラムをRGB各色別に表示して調整
- 「レベル調整」と「トーンカーブ調整」で、画像ピクセル値を参照してダイアログに表示
- ▶ 背景とフィルタ係数でカラーバランスを簡単に調整する「オートストレッチ機能」
- 階調差が広い画像の高輝度部を階調圧縮し、ディテールを描出する「デジタル現像」
- ▶ 「明るさ/コントラスト」「デジタル現像」などでRGB各色別に調整
- ハイライト部とシャドウ一部のバランスを崩すことなく色調を整える「Lab色彩調整」
- 天体の構造を見やすく表示する「疑似カラー」
- 3×3行列でRGB値の色彩を補正する「マトリクス色彩補正」

● 画像合成

- ▶ 「コンポジット合成」で、自動位置合わせに対応 / ピクセルの補間方法を選択
- 加算コンポジットを繰り返しても階調が飽和することなく合成
- 冷却CCDカメラのカラー合成に必須の「LRGB合成」
- ブルーミングを除去する「ノンブルーミング回転合成」用のコンポジット
- 撮影範囲の異なる複数の画像をつなぎ合わせる「モザイク合成」
- しきい値を指定して、範囲外のデータをコンポジットから除外
- 画像を読み込みます、アクティブ画像から基準点を参照してコンポジット処理

● フィルタ

- 恒星をシャープに見せる「スターシャープ」「スターエンハンス」
- 恒星以外の背景や星雲のみを滑らかにする「ネビュラススムース」
- 撮像素子に特有のホットピクセル、クールピクセルを除去
- 「マルチバンドシャープ」で、6つの異なるアンシャープマスクを同時に処理
- ユーザー定義のフィルタを作成可能 / カスタムフィルタは9×9行列に拡張対応
- ▶ 「青ハロ/偽色除去」で青にじみや偽色をワンタッチで除去
- ▶ ガイドエラーで楕円形になった星像を円に戻す「ガイドエラー補正」

● 画像復元

- 大気の影響による天体像の拡散を復元する「画像復元」
- 星像から拡散の度合いを計測
- プレビュー表示を見ながら最適なパラメータを設定

● 測定

- 標準星の等級を設定して、マウスのクリックで「光度測定」が可能
- 撮影時刻順に画像を表示して天体の動きを確認する「プリンクコンパレータ」
- 画像の階調を2次元または3次元のグラフとして表示する「2D・3Dグラフ表示」

● バッチ処理

- ▶ 自動位置合わせで高精度なコンポジット/ピクセルの補間方法を選択
- ▶ 画像表示に加えて恒星のFWHMとスカイ α で良好な画像のみを選択
- バッチで「ワークフロー」を実行可能 / 多数の画像の基準点をもまとめて処理
- 移動天体のモーションに合わせてコンポジットする「メトカーブコンポジット」
- 「比較明コンポジット」で連続撮写した画像から日周運動などを簡単に合成
- 「ダーク/フラット補正」および「ホット/クールピクセル除去」のバッチ処理が可能

● RAWファイルの処理

- 主なデジタル一眼レフカメラのRAWファイルをベイヤール配列で読み込み
- 「ホット/クールピクセル除去」などの画像処理を施して、カラー画像に展開
- RAW画像の読み込み時に、結果を見ながらホワイトバランスとガンマを調整
- RAWファイルの「ダーク/フラット補正」

● 動画の処理

- 動画を読み込み、画像ファイルに展開して個々の画質を評価
- 選別した良好な画像をコンポジットして画像を作成
- 動画ファイルのフレームを一枚ずつ静止画としてキャプチャ画像に変換

● 天体画像に特化した多彩な機能

- 読み込み可能な全ての画像のサムネイル表示
- 処理手順を記録・再生する「ワークフロー」
- モノクロ化した画像を「選択マスク」にして処理範囲と適応度を調整
- ダークノイズの除去や光学系のケラレを補正する「ダーク/フラット補正」
- 冷却温度と露出時間に対応したダークフレームを自動選択
- ダークフレームを補間して、別の露出時間・冷却温度のダークを生成して補正
- ▶ 「ガンマフラット機能」で迷光の影響を除去してフラット補正をより適正に実行
- RGB各色別に周辺減光や傾斜カブリを補正する「周辺減光/カブリ補正」
- 「周辺減光/カブリ補正」で、ポイント指定によって補正面を調整
- 階調を等光度曲線に変換 / 惑星像から簡単に「惑星展開図」を作成
- 皆既日食のコロナのディテールを強調する「ローテーショングラディエント」
- ▶ 「H α 画像処理」でH α で撮影した太陽像の光球面とプロミネンスを簡単に処理

● 推奨システム構成

- 対応OS: Windows XP (SP2以降) 32bit 日本語版
- Windows Vista / 7 / 8 32bit, 64bit (*1) 日本語版
- (*1) 64bit版Windowsで使用した場合、4GBを超えるメモリを使用できます。
- ※英語版Windowsでも動作可能ですが(表示は日本語)。
- CPU : Intel Pentium 4相当以上(マルチコアCPUを推奨)
- メモリ : 空きメモリ512MB以上(2GB以上の実装を推奨)
- モニタ : 解像度1024×768ドット、65,536色以上が表示可能なカラーモニタ(1280×1024ドット以上を推奨)
- ハードディスク : 空き容量1GB以上 ディスク装置 : CD-ROMドライブ

※「StellImage」「ステライメージ」は、株式会社アストロアーツの登録商標です。その他の会社名や商品名は、各社の商標、または登録商標です。
 ※カタログ中の記事や仕様、および本体価格は、2013年2月現在のものです。製品の仕様、および本体価格は、事前の断りなしに変更する場合があります。